

単位制の特色を生かした取り組み

開陽高等学校全日制 地理歴史公民科 横峯達也

1. はじめに

現在、開陽高等学校（全日制）に地歴公民科の教諭として勤務し4年目になる。初任教研修2年目の課題研修で「学習意欲を高めるための授業実践」という研究主題を掲げた。学習意欲を高め、学力向上を図るための方策として（1）ICTの効果的な活用（2）アクティブ・ラーニングを導入した復習（3）※博学連携を設定した。（※「博学連携の実践」については、開陽高等学校 全日制 HP の平成29年度研究紀要参照）ここでは上記の方策を踏まえて、単位制高校の特色も生かしながら学力や主体性を高めるために取り組んだ内容についてまとめることとした。

2. 単位制高校の利点について

本校は県内の公立高校では唯一の単位制高校で、通常の高校とは教育システムが相違している。主な相違点として、（1）進路や興味・関心に応じて時間割を作成できること（2）1コマの授業時間が90分であること（3）制服がなく多様性を認め合える環境が整っていることなどが挙げられるが、それらは同時に利点でもあると考える。その利点を生かして、私もほかの学校ではできないことをやってみようと思った。

3. 史跡見学レポート

博学連携の視点に立ち、担当する授業で「史跡見学レポート」を夏季・冬季休業中の課題の1つとした。内容は平成29年に参加した学習支援講座「エンジョイ黎明館」にて配布された資料の中に、博学連携の具体例として紹介されていた、東谷山中学校が平成28年度に実践したものを参考にさせて頂いた。

平成29年度は、それにならって「黎明館見学レポート」を課題とした。26名を対象に課題を出したが、提出したのは11名に留まった。それは日本史Aの授業において、動機付けができていなかったためだと反省している。（参考文献⑧）

その反省を踏まえて、生徒が授業で学んだ内容について博物館等を利用し、さらに詳しく調べてみたいと思えるように授業改善をした。歴史と現代のつながりを意識してもらうために、鹿児島島の史跡に加えて、大学時代を過ごした東京や旅行等で訪れた史跡の資料や写真を授業の関連する单元の中で提示した。教科書の内容の補助的な資料として活用したり、授業の導入時に資料や写真を見て考えさせる目的で使用した。

そして平成30年度からは、鹿児島市加治屋町にある「歴史ロード” 維新ドラマの道”」の見学レポートを夏季・冬季休業中の課題とした。課題の内容は、以下の通りである。

開陽高等学校 日本史 夏季課題【歴史ロード「維新ドラマの道」見学レポート】

「維新ドラマの道」には7つのモニュメント（展示）があり、それらを見学しレポートを作成する。

提出期限： 月 日

() HR 氏名 ()

【課題1】見学したモニュメントの1つと一緒に写真を撮り、以下にのり付けしなさい。

【課題2】7つのモニュメントを見学し、以下の問いに答えなさい。

問1：『No.1 島津斉彬と集成館事業』について、反射炉とは何か説明せよ。

問2：『No.3 薩摩藩英国留学生』について、以下の（ ）に適する語句を書け。

慶応元年（ ）年、視察員（ ）名と、薩摩藩開成所を中心にした留学生（ ）名からなる（ ）名の薩摩藩留学生を派遣した。留学生は（ ）留学に向けそれぞれ名前を変え（ ）が準備した船で密かに羽島（ ）市を出発した。

問3：『No.5 大久保利通と岩倉使節団』について、以下の（ ）に適する語句を書け。

明治4年（ ）年、（ ）の改正と新政府の体制確立を欧米先進国に学ぶべく、（ ）は岩倉使節団の副使として海外視察に赴いた。

【課題3】7つのモニュメント『No.1 島津斉彬と集成館事業』・『No.2 大山巖と薩英戦争』・『No.3 薩摩藩英国留学生』・『No.4 五代友厚とパリ万博』・『No.5 大久保利通と岩倉使節団』・『No.6 西郷隆盛と西南戦争』・『No.7 東郷平八郎・山本権兵衛と日露戦争』の中から、自分の興味のあるものを一つ選び、その内容を以下に書き写しなさい。

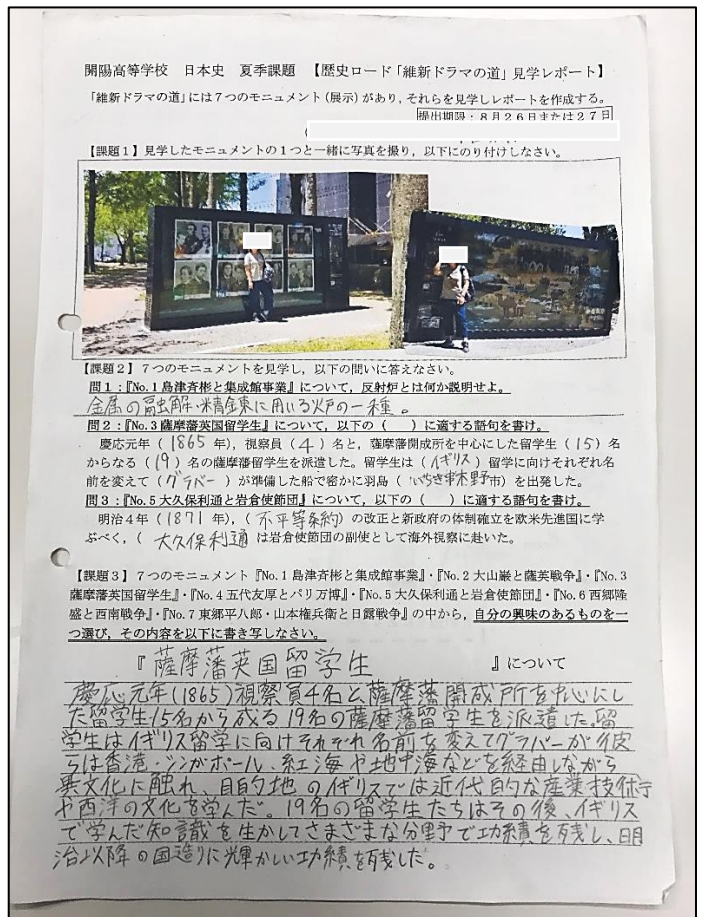
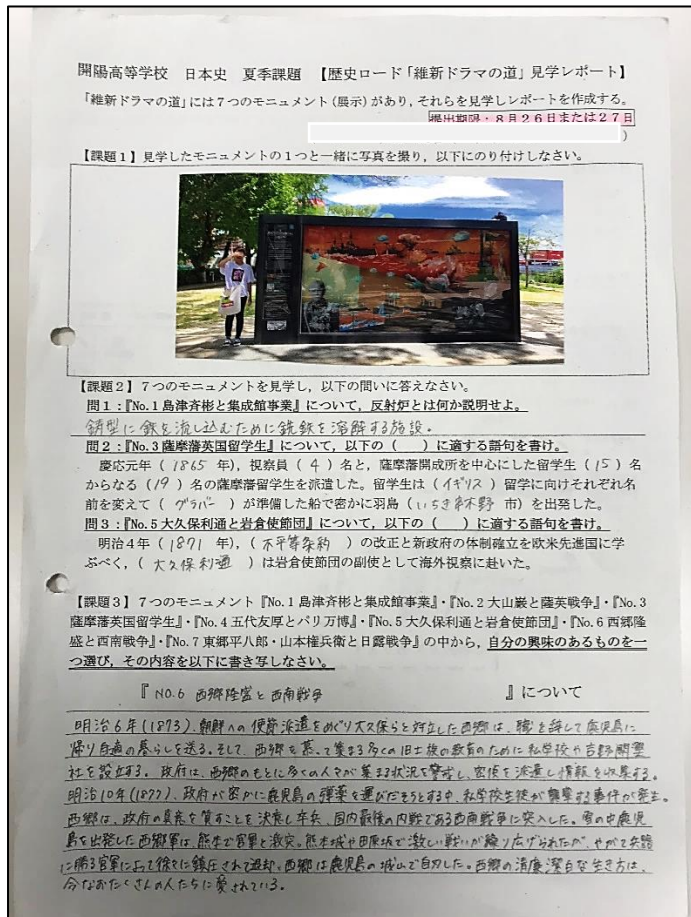
『

』について

※5～6行程度

以下、実際に本校生徒が作成した「史跡見学レポート」である。

左は「西郷隆盛と西南戦争」、右は「薩摩藩英国留学生」について。



〔生徒の感想〕

中間年次 女子

自分からはなかなか行く機会がない所なので、今回行くことができて良かった。実際に行ってみて歴史などが写真や絵で表されているものがあり、歴史についていろいろ知ることができたのでいい経験になりました。

入学年次 女子

もともと薩摩藩英国留学生に興味を持っていたので行きました。日本史の授業でも留学生だった人物が出ていたので、もっと勉強しようと思い「薩摩ステューデント」のモニュメントを課題にしました。調べてみるとさらに興味と関心を持てたので、これからも調べていこうと思いました。

4. 小テスト作成を通した生徒による復習

(1) 目的

「小テスト作成を通した生徒による復習」の導入の目的は3つある。1つ目は他の学校と同様で、基礎基本を定着させて学力を向上させるためである。2つ目は1コマ90分の授業時間を有効に活用するため。3つ目は生徒に主体的に授業に関わり、努力してもらうためである。本校は単位制であるがゆえに、安易に休んだり、ただ授業に出席すればよいと考える者も出てくる。単位を取得して高校卒業の資格を得るためには少なからず努力が必要であることを理解し、授業を通して主体性を高めてもらいたいと思ったからだ。(参考文献⑥)

(2) アクティブ・ラーニングを導入する上で留意したこと

・担当講座(クラス)におけるアクティブ・ラーニングについて

本校は多様な生徒が在籍しており、かつ授業もHR単位ではなく履修した生徒を対象に行われるため異なる学年やHRの生徒が同じ教室内で受講している。そのため協働的な学習活動(教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等)が困難な講座もある。また生徒によっては、そのような取り組みが必ずしも学習意欲の向上に効果的ではない場合が多々ある。そのため、高校や生徒の進路の実態等を踏まえたアクティブ・ラーニングを実践することが重要であると考えます。

・本校でのアクティブ・ラーニング観

どのような生徒でも「持続的」に実践できるアクティブ・ラーニングが本校には適しているのではないかと考える。「小テスト作成を通した生徒による復習」は人前で発表することが苦手な生徒でも無理なく取り組むことができる。

(3) 方法

一般的な小テストと違う点は、「生徒が小テストを作成する」ところにある。これは『地理研究 2016 第47号』(参考文献⑦)に掲載されていた論稿、『毎日できるプチ・アクティブラーニング』を参考にさせていただいた。上記(2)の留意事項を踏まえ、最初の授業で以下のような資料と小テスト用紙を配布して説明した。

復習の方法については、以下の2パターン(①か②いずれか)から選択できるようにした。

①前回学習した内容を範囲とする小テストを作成する。問題数は最低5問。そのうち1~2問は文章で解答するものを作成する。

②前回の学習内容を2~3分で発表する。

②の方がアクティブ・ラーニング的な復習といえるが、本校ならではの事情を考慮すれば①の方が「持続可能な方法」といえる。

アクティブ・ラーニングを導入した復習

以下の 1. 2のいずれか 1つを選択する。

1. 小テストを作成する。問題数は最低5問。1～2問は文章で解答するものを作成する。

(小テストの例)

1.	今から1万年余り前を境にした更新世は、別に何時代ともよばれているか。
2.	更新世の日本で、人類の生存が確認されている静岡県の新人化石人骨を何というか。
3.	旧石器時代の解明のきっかけとなった群馬県の遺跡名を答えよ。
4.	③を発見した人物名を答えよ。
5.	旧石器時代の人々はどのような生活を送っていたか簡潔に答えよ。

2. 前回の学習内容を発表する。時間は2～3分

(発表の例)

前回は旧石器時代について学習しました。旧石器時代とは〇〇〇な時代です。その時代に使用されていた石器は〇〇〇と呼ばれています。その種類は〇〇〇などがあります。その時代の人々は〇〇〇を使用して、〇〇〇などの大型動物を捕獲し、それらを食料としていました。

それでは質問です。

〇〇〇〇像の化石が発掘された遺跡名を教えてください。

～以下省略～

単元名()	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

※担当する授業の前日までに教科担任へ提出する。(※授業で学習した内容を範囲とする。)
 ※問題のみを作成。解答は書かなくて良いが、問題作成者は解答を裏面に準備しておくこと。
 ※裏面に HR・氏名を記入する。

下の枠線内は「作成上の諸注意」の拡大

- ※担当する授業の前日までに教科担任へ提出する。(※授業で学習した内容を範囲とする。)
- ※問題のみを作成。解答は書かなくて良いが、問題作成者は解答を裏面に準備しておくこと。
- ※裏面に HR・氏名を記入する。

(4) 実際

【実施までの流れ】

- ①授業終わりに該当生徒に対して、次回の小テストを作成して提出するように指示する。
- ②授業前日までに生徒から提出された小テストの内容を確認し、必要に応じて加除修正する。
- ③授業までに人数分を印刷する。

担当するすべての日本史の授業で実施。授業は70分程度に収め、授業の始めに15～20分ほど小テストの時間を設けた。(参考文献⑥)日本史Aでは授業の冒頭で小テストの出題範囲を生徒に伝え、3～5分間は小テストのための勉強時間に充てさせた。小テスト導入の目的は、生徒の学力や主体性を高めることである。授業開始と同時に小テストを配布して解かせては、ただ時間が過ぎるのを待って全く問題に手をつけない者もでてくる。生徒が作った小テストを無駄にさせないためにも、その仕掛けをした。たとえ小テストであっても、しっかり準備をして、真剣に取り組むべきであると考えた。

以下、実際に本校生徒が作成した「小テスト」である。

左は「社会主義運動の高まりと積極外交への転換」から出題。右は「恐慌からの脱出」から出題しており、特に第5問の文章で回答する問題は、生徒の工夫が見られる。内容は『日本が恐慌から脱出した方法について、①当時の蔵相の名前、②その政策の内容、③それによって変化した通貨制度を明らかにして答えよ』と書かれている。

単元名()	HR()	氏名()
1	普通選挙法による最初の総選挙は、何年に行われたか。(田中義一内閣)	
2	1927年、満州における日本権益は武力で守る、という方針を決定した会議を何と言いか。	
3	1928年に第二次山東出兵で国民革命軍と武力衝突がおこったことを何と言いか。	
4	五大銀行は、三井、三菱、住友、第一、()である。	
5	1928年の治安維持法改正の内容。	
6		
7		
8		
9		
10		

※担当する授業の前日までに教科担任へ提出する。(※授業で学習した内容を範囲とする。)
 ※問題のみを作成。解答は書かなくて良いが、問題作成者は解答を準備しておくこと。
 ※裏面にHR・氏名を記入する。

単元名()	HR()	氏名()
1	1932年、井上日召ら右翼運動家による血盟団事件で殺害された、三井財閥の最高指導者は誰か。	
2	1933年の国際連盟臨時総会で、日本が満州国の承認を撤回することも求める勸告案の可決をうけて、総会の場から退場した日本全権団の代表は誰か。	
3	多くの社会主義・共産主義者が国家社会主義に転じていく中、残された人々が結成した当時最大の無産政党は何か。	
4	美濃部達吉の憲法学説も反国体的と非難し、「天皇機関説問題」が起るきっかけを作った人物は誰か。	
5	日本が恐慌から脱出した方法について、①当時の蔵相の名称、②その政策の内容、③それによって変化した通貨制度を明らかにして答えよ。	
6		
7		
8		
9		
10		

※担当する授業の前日までに教科担任へ提出する。(※授業で学習した内容を範囲とする。)
 ※問題のみを作成。解答は書かなくて良いが、問題作成者は解答を準備しておくこと。
 ※裏面にHR・氏名を記入する。

5. 生徒による授業

(1) 経緯

「日本史探究」という卒業年次生(3年生)の大学進学希望者を対象とした講座で、アクティブ・ラーニングの一環として「生徒による授業」を実施した。受講している卒業年次生7名は、中間年次生(2年生)の時から「日本史B」を履修し、ここまで同じメンバーで学習してきた。したがって、本校でアクティブ・ラーニングをする上での課題である協働的な学習活動(グループ・ディスカッション、グループ・ワークなど)が可能であると判断したため、この取り組みを実施するに至った。

(2) 単元

「第9章 近代国家の成立 5節 近代産業の発展」 産業革命 紡績・製糸・鉄道

(3) 事前指導

7名を「紡績業」班と「製糸業」班の2つのグループに分け、それぞれに以下のような学習課題と視点を設定して、プレゼンテーションの準備の指示をした。受講生は放送部・美術部・書道部に所属する生徒がいることから、それぞれの個人・グループの特色が出るような内容にするように伝えた。(参考文献③)

「紡績業」班

【学習課題】

「幕末期から明治にかけての紡績業の発展の特徴について考える」

【視点】

(1) 幕末期の紡績業について

(2) 1880年代以降の紡績業について

- ①紡績技術
- ②大阪紡績会社
- ③綿糸の生産と輸出入の変遷

「製糸業」班

【学習課題】

「幕末期から明治にかけての製糸業の発展の特徴について考える」

【視点】

- (1) 幕末期の製糸業について
 - ①輸出品としての生糸
 - ②主な生産地
- (2) 明治期の製糸業について
 - ①製糸技術
 - ②製糸工場の実態

(4) 実際



左の写真は「紡績業」班の発表の様子。書道部の生徒が渋沢栄一に関連する言葉を準備し、放送部の生徒が説明している。右の写真は桑の葉と蚕・まゆのイラストである。「製糸業」班の美術部の生徒が作成し、資料として使用した。各グループのメンバーが役割を分担しながら、個性を生かし工夫を凝らした発表となった。

授業の最後に大学入試問題を使って、以下のようなまとめをした。時間が足りず各グループが意見をまとめて発表するまでには至らなかったが、重要な語句・キーワードを書いて意見交換をしている様子が見られた。

「紡績業」班は「製糸業」班の発表を参考にして、製糸業の発展の特徴を90字以内でまとめる。

「製糸業」班は「紡績業」班の発表を参考にして、紡績業の発展の特徴を90字以内でまとめる。

その際、以下の手順に従ってグループ学習をしてもらった。

- ①個人で考える (3分間)
- ②同じグループ内で意見を交換する (3分間)
- ③各グループは意見をまとめ代表者が発表する (3分間)

問 下の表は1900年(1897~1902年平均)前後の外国貿易の状況を示したものである。この表を手掛かりにして、この頃における製糸業・綿糸紡績業それぞれの発展の特徴を、180字以内で記せ。

輸出		輸入	
総額	216,225千円	総額	262,141千円
生糸	60,172	綿花	61,572
(うち横浜港)	(60,140)	繭(まゆ)	472
綿糸	22,119		
(うち神戸港)	(20,063)		

(5) 実物資料としての絹織物

本校の特色の一つに、制服がなく多様性が認め合える環境が整っていることが挙げられる。この「生徒による授業」を実施した2018年は明治維新150周年にあたり、筆者も何かできないかと考えていた。授業では生糸や製糸業について扱うので、実物資料としての着物(絹織物)を着て授業をするのも「開陽らしい」と思い準備をした。

まずはモデルとなる歴史上の人物を決めることから始めた。鹿児島県の人物が良かったのかもしれないが、着物を着用しているイメージが強かったこと、比較的軽装で準備が容易であるという理由から坂本龍馬に決定した。個人的な興味や憧れも強かったのも、機会があれば扮してみたいと思っていた。

次は肝心の着物を用意しなければならない。インターネットで探してみるとポリエステル素材の着物は見つかったが、絹織物はなかなか見つからなかった。また自身の体格に合うサイズもなかったのも、何事も経験だと思いう着物を仕立ててみることにした。

いくつか呉服店に連絡をとって見たところ、予算内でこちらのニーズを満たしてくれたのが鹿児島市金生町にある百貨店の山形屋であった。実は呉服を鹿児島に持ってきたのは山形屋である。その歴史のある山形屋の呉服売り場にて、こちらの要望を聞いてもらい「家紋入れ」を含む仕立てをお願いした。坂本龍馬が使用していたとされる刀「陸奥守吉行」はインターネットで探して購入。

このように準備に時間はかかったが、生徒は絹織物や刀に興味を示して触れてみたりするなど、反応は良かったように感じる。



坂本家の家紋「組あい角に桔梗」 ↓



坂本家伝来の家宝であり、龍馬脱藩時に家族より渡されたとされる「陸奥守吉行」を再現した刀（模造刀） ↓



6. 単位制のシステムを生かした卒業年次生による乗り入れ授業

(1) 経緯

「日本史探究」という講座を受講している卒業年次生（3年生）に、連休（2019年のGW）を利用して京都の史跡巡りをしたとの報告を受けた。京都の史跡巡りの話を聞いて、その生徒に「実際に史跡を見て感じたことを

日本史Bの授業で発表してくれないか。」と提案したところ快諾してくれた。

前述したように本校の特色の1つとして、進路や興味・関心に応じて時間割を作成できることが挙げられる。生徒の進路状況や取得単位数によっては、卒業年次（3年生）になると時間割に授業のない時間帯（「空きコマ」）ができる場合もある。その所謂「空きコマ」を利用して、「日本史B（主として2年生対象の講座）」の授業に参加してもらうことになった。他校とは違う教育システムにより、今回の取り組みが可能となった。

(2) 単元

- 1回目：「第4章 中世社会の成立 1節 院政と平氏の台頭」 院政期の文化
 2回目：「第5章 武家社会の成長 3節 室町文化」 南北朝の文化 北山文化

(3) 実際

この授業については生徒に全てを任せるのではなく、教科書の単元「院政期の文化」と「室町文化」の授業の一部として、生徒自身が京都の史跡を見学して感じたことなどを中心に発表してもらった。生徒は史跡の詳細を説明しながら、教科書の内容との関連についても触れたりしてくれた。中間年次生の方も新鮮な反応を見せていたので、発表をする側とそれを聴く側の双方にとって有意義な時間であったように感じる。

下は発表した生徒の資料と授業の様子。

室町時代の文化 (建仁寺と茶) について

<建仁寺>

- 北山文化期に完成した五山・十刹の制、京都五山のひとつ P141
- 鎌倉時代 禅宗(臨済宗)のお寺として(栄西)によって開山 P114~115
- 東山文化で登場する枯山水の庭園がある P143

<栄西>

- 南北朝文化で登場する「茶」は、(栄西)によって一般に広められた。 P140
- 禅宗とお茶は関わりが深い (例) 座禅の時の眠気まし
- 栄西は茶の効能を説いた『喫茶養生記』を宋朝に献上した
- 華嚴宗の明恵にお茶をプレゼント → 宇治茶のもとになった(らしい) (P115)

天台宗 南都大寺と
新仏教の広まり

<茶>

- 南北朝期 ... 後醍醐天皇、光厳のとき開茶が流行
 - 民衆や武工の間でも流行 (P122 二条河原浩喜)
 - 足利尊氏が武家法で禁止 → (" 建武式目)
 - ↓ 大名の間で流行がブーム
 - 応仁の乱まで続く
- 北山文化で
 - これに対し 村田珠光(義政の茶の師匠)がしずかにたのしむ 侘茶を創出
 - 現代の茶道のスタイル確立

唐物 お説くは
唐茶

唐物 お説くは

P118の唐物(日明貿易の輸入品)をきっかけに流行

侘茶 時代
興隆? → 枯山水

京都最古の禅寺 建仁寺 (上写真) や開山した栄西と茶の関係 (下写真) について発表する生徒



(4) 発表生徒の感想

以下の5項目について、発表してくれた生徒に感想を書いてもらった。

1. 史跡めぐりをしようと思ったきっかけ

日本史に興味があり、先生が授業で使用していた法隆寺や東大寺のパフレットなどの資料が面白かったので、もらいに行きたかった。

2. 見学する寺院を選んだ理由

見学するお寺を選んだ基準は授業で学習した寺院であり、京都を一周する史跡めぐりのルートに組み込める場所であったから。

3. 鳥獣人物戯画や建仁寺を発表の題材にした理由

1回目の発表(鳥獣人物戯画)、2回目の発表(建仁寺)ともに実物を見たことがきっかけ。高山寺の鳥獣人物戯画では丙巻に描かれているサルの絵に影響を受けて、狩野探幽が「戯画図巻」に同じポーズの不動明王の絵を描いていたことなど、同時に展示されている品などから意外な角度での発見があった。また建仁寺や相国寺、六波羅蜜寺の空也像など実物を見に行くと、教科書や資料集の写真では分からない材質や空也像の表情など細部まで知ることができた。建仁寺では栄西と茶の関係、そして相国寺には藤原定家・足利義政・伊藤若冲のお墓や後水尾天皇髪齒塚があり、他の歴史的事項・人物との関連に気付くことができた。

4. 発表を終えて感じたこと

中間年次生に説明するに当たって、「どう話せば伝わるか」・「どのような資料を使うのが効果的か」などを考えることで理解を深めることができた。また自分が学習した内容の中で、どの部分が重要なのかを確認することもできた。結果的に記憶にもすごく残り、とても良い復習になった。教材を研究する過程でインターネットを活用したり、関連する書籍を使って調べたりもした。教科書には載っていないことも知ることができて面白かった。

5. 進路実現とのつながり

面接試験の時に、この経験話すことで「積極的・主体的に勉強に取り組む姿勢」や「大学での学びに必要な情報収集力・課題を発見し解決する力やプレゼンテーションのスキル」などをアピールできた。また調べて発表した内容を話すことで、この学習を通して深めた日本史に対する理解や歴史的思考力を伝えることができた。

7 終わりに

以上、本校の特色を生かした取り組みについての感想を最後に述べたい。

「史跡見学レポート」は平成29年度から実施してきたわけだが、令和元年度は前年の大河ドラマが影響したこともあってか、日本史A受講者67名のうち40名が「歴史ロード”維新ドラマの道”」の場所に足を運び、レポートを提出してくれた。地域の史跡等に興味を持って、調べ学習に取り組む生徒が多く見られたといえる。レポートの内容は中学生用のものを改良したもので、簡単に作成できるものであったが、生徒の感想にもあるように「調べたい」という意欲は高まったように思える。史跡見学レポートは「自ら課題を発見して調べる」内容のものが理想的であるが、学校の実態に応じて「何について学ぶか」や「目標や到達点」を予め設定した内容にしても良いと考える。今後も地域の史跡や史料館などを巡り、教材を探索していきたい。

「小テスト作成を通した生徒による復習」についても、平成29年度から3年間「日本史A」・「日本史B」・「日本史探究」の授業で実施した。欠席した生徒を除いて、ほぼすべての生徒が作成してくれた。目的である学力と主体性が高まったかどうかは分からない。しかし何もしないよりは良かったと感じている。クラスの人数にもよ

るが、1人あたり学期で1～2回程度作成すれば良いので生徒の負担感は重くはないし、教師の負担も軽くなった。

最後に「生徒による授業」と「単位制のシステムを生かした卒業年次生による乗り入れ授業」について。この2つの取り組みの目的は、多様な学習形態によって「自ら発見して、自ら考える」機会をつくることにある。上記の生徒の感想にもあるように、その目的の一部は果たせたように思える。また平成30年度と令和元年度の「日本史探究」受講者合計10名のうち3名が歴史系の学部・学科に進学することになったので、これらの取り組みを通して、歴史に対する興味関心や学習意欲が高まったのではないかと感じている。

単位制高校の特色を生かした取り組みを実践してきたが、注意しなければならないことは「何のために」・「生徒のどのような能力を育成したいのか」という視点である。授業において、新しい取り組みをすること自体が目的になってはいけない。ICTの活用やアクティブ・ラーニングの導入、言語活動の充実を図る目的をしっかりと念頭に置き指導することが必要であると感じている。勤務する場所が変わってもその高校の特色や生徒の実態に応じた取り組みをしていきたい。

8 参考文献等

- ①『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』 文部科学省（教育出版）
- ②『明治維新と郷土の人々』 鹿児島県
- ③『ハーバード白熱日本史教室』 北川智子 新潮新書 平成24年
- ④『東大のディープな日本史 近世・近代編』 相澤理 株式会社KADOKAWA 平成28年
- ⑤『歴史への興味関心を高め、歴史的思考力を育てる授業』 橋口勝嗣 平成24年屋久島高校紀要
- ⑥『「指導略案」と「生徒評価」及び「小テスト」を導入した授業の一試み』
山之内敏喜 開陽高校全日制紀要 平成25年
- ⑦『地理研究 2016 第47号』 鹿児島県高等学校地理部会 平成28年
- ⑧『常設展示の世界 学習支援のための鹿児島の歴史と文化』 黎明館配布資料